2024年度　被災地支援のための馬とのふれあい活動事業

実施報告書

活動報告①八戸公園乗馬体験会
活動報告②八戸あおば馬とのふれあい活動
活動報告③さつき幼稚園みどりいっぱい体験会
活動報告④深持小・地域の文化を学ぶ会

令和6年12月18日

十和田乗馬倶楽部

① 事業名：八戸公園乗馬体験会

実施期日：令和 6 年 7 月 14 日

主催者名：全国スポーツ流鏑馬八戸大会実行委員会

共催者名：八戸市都市整備部 公園緑地課（八戸公園）

実施場所：八戸公園（青森県八戸市大字十日市字天摩 33-2）

実施事業内容：引き馬、レザークラフト体験、エサやり体験

形態：現地訪問型

参加者：160 名

スタッフ：12 名（有資格指導者 4、取扱者 5、ボランティア 3）

使用馬匹：5 頭

事業の効果・評価：

今回のイベントは、植物園や遊園地が併設される公園内で開催され、多くの来場者を引き付けた。特に八戸市では馬に関連する施設がほぼないため、子どもはもちろんのこと、大人の体験希望者も多かった。

参加者からは「楽しかった」「またやりたい」という声が多く寄せられ、継続的な取り組みへの期待が高まったと感じられる。

インターネット中心の主催者による事前広報のほか、当日は共催者が施設内アナウンス放送で効果的に呼びかけたことで、切れ間なく来場者が訪れた。

また、同じ空間にてレザークラフトと絵画も行ったことで、滞在も延び、会場内の賑わいを作りだすことができ、それがさらなる来場喚起につながった。

② 事業名：八戸あおば馬とのふれあい活動

実施期日：令和 6 年 10 月 3 日

主催者名：八戸あおば高等学院

共催者名：NPO 法人あおばの会、青森県教育委員会

実施場所：十和田乗馬倶楽部（青森県十和田市大字三本木字佐井幅 115-2）

実施事業内容：引き馬、弓矢体験、流鏑馬体験

形態：乗馬施設招致型

参加者：36 名（高校生）

スタッフ：8 名（有資格者 4、取扱者 4）

使用馬匹：6 頭

事業の効果・評価：

八戸あおば高等学院は、不登校になった子どもたちや高校中退者、発達がアンバランスな子どもたちなどを対象に社会的自立ができるよう支援する、県教育委員会指定の技能教育施設（通信制高校）である。学校では全国で初となる「スポーツ流鏑馬」授業を取り入れ、木馬を用いた弓矢の練習を行うとともに、今年度は練習生徒の流鏑馬競技大会出場などの実績もあり、流鏑馬を通した地域の歴史文化の発信・学習機会を設けている。

教育に馬を活用したい学校の思いに応え、体験乗馬と弓体験の後には、最後には引馬での流鏑馬大会ゲームを行い、生徒自身による運営活動から学ぶ実践活動も交えた体験会となった。

学校側で見学を呼びかけてくれたり、プレスリリースも行ってくれたりしたため地元新聞社が取材にも訪れた。

③ 事業名：さつき幼稚園みどりいっぱい体験会

実施期日：令和 6 年 10 月 9 日

主催者名：認定こども園さつき幼稚園

共催者名：学校法人さつき学園

実施場所：十和田乗馬倶楽部（青森県十和田市大字三本木字佐井幅 115-2）

実施事業内容：引き馬、ふれあい、えさやり体験

形態：乗馬施設招致型

参加者：38 名（園児）

スタッフ：8 名（有資格者 4、取扱者 4）

使用馬匹：5 頭

事業の効果・評価：

流鏑馬を活用した交流を行っている地域の幼稚園の年長クラスの園児 31 名が参加。2 グループに分かれ、引き馬乗馬体験・にんじんえさやり体験を行った。

寒空の中でも子どもたちは元気に乗馬を楽しんでいた。エサやり体験も間近で馬を見ることも少ないので、興味津々でにぎやかだった。

園側で保護者役員にも見学を呼びかけたことで、当日は保護者も数名同伴し写真撮影を行っていた。

実施後はクラスだよりやホームページなどで発信されるほか、1 週間後には市内で流鏑馬イベントが開催されるため、来場にも間接的にもつながることとなる。

④ 事業名：深持小・地域の文化を学ぶ会

実施期日：令和 6 年 10 月 30 日

主催者名：十和田市立深持小学校

共催者名：十和田市教育委員会

実施場所：十和田乗馬倶楽部（青森県十和田市大字三本木字佐井幅 115-2）

実施事業内容：引き馬、ふれあい、馬に関する教育、エサやり体験、施設見学

形態：乗馬施設招致型

参加者：14 名（小学生）

スタッフ：4 名（有資格者 2、取扱者 2）

使用馬匹：3 頭

事業の効果・評価：

地区内の小学校より 5・6 年生が徒歩にて来訪。馬について学ぶため、施設内を活用した乗馬（トレッキング）体験、エサやり体験、施設見学による馬の勉強（修正・性質理解）のメニューを提供した。

また、体験会と合わせて、生徒が総合的な学習（探究）の時間にて作成した、十和田市の馬に係わる歴史文化発表を傍聴し、意見交換も行い、学校の学習要素を交えた体験会となった。この体験を踏まえ、翌月 11 日は校内で探究成果発表会を開催するとのことで、そこでも他生徒等への発信が行われる。また、学習を下級生に引き継いでいく予定もあるようなので、学校にとっても学習機会としての本事業の活用ができることを感謝していた。